

国立若狭湾青少年自然の家 事業運営構想図 (平成30年度)

国の施策

◎体験活動は人づくりの「原点」だという認識のもと、社会総ぐるみで体験活動の機会を意図的・計画的に創出していく必要がある。(平成25年1月「今後の青少年の体験活動の推進について」中央教育審議会答申)
 ◎「社会を生き抜く力の養成」、様々な体験活動及び読書活動の推進 (平成25年6月「教育振興基本計画」閣議決定)
 ◎青少年教育施設における規則正しい生活習慣や自立する力を身に付けるための体験活動の充実に取り組む。
 (平成28年2月「子供・若者育成支援推進大綱」子ども・若者育成支援推進本部決定)

国立青少年教育振興機構の教育に関する目標(中期目標・中期計画より)

○自立する青少年の育成の推進
 ○青少年教育指導者等の養成及び資質の向上
 ○青少年、青少年教育指導者等を対象とする研修に対する支援
 ○青少年教育に関する関係機関・団体等との連携促進
 ○青少年教育に関する調査研究

青少年教育の課題への対応(中期計画より)

○青少年教育指導者その他の青少年教育関係者に対する研修及び青少年に対する研修を行う教育拠点としての施設を設置し、同施設において青少年の研修を行う。
 ○施設を青少年教育指導者等の研修利用に供する。
 ○施設研修利用に指導及び助言を行う。
 ○青少年教育に関する関係機関・団体等との連携を促進する。
 ○青少年教育に関する基礎的・専門的な調査研究を実施する。
 ○青少年教育に関する団体が行う活動に対する助成金の交付を行う。

国立若狭湾青少年自然の家の特性

○若狭湾国立公園の中心部の「田島半島」の一画にあり、眼前にはリアス式の美しい海岸美を形成している。この恵まれた立地条件を生かし、カッターやスノーケリング・シーカヤック・水泳・ボートなどの海型の活動が展開できる。
 ○山側には、半島をとりまく自然遊歩道があり、その周辺にはクロマツ・コナラ・ヤマザクラ・ヤブツバキなどが群生しており、四季折々の美しさが味わえ、ハイキングやグリーンウオッチングなどの野外活動や自然学習ができる。
 ○大陸文化や食材(鯖)が若狭から京都へと流通していった歴史があり、数多くの貴重な文化財に恵まれている。
 ○近隣の施設や漁港(漁村)と連携し、海の道を活かしたプログラム展開ができる。
 ○東京大学との連携により、海洋リテラシーに基づいた事業計画や運営ができる。

事業運営の方針

1 教育事業の充実を図るため、
 ○若狭湾の魅力を生かし、国立施設としての特色ある事業を推進する
 ○「新・機構元気プラン」を踏まえ青少年に関する国の課題に対応した事業を推進する
 ○地域の指導者やボランティアを対象とする指導者養成事業を推進する
 ○体験活動や基本的な生活習慣などの重要性に関する普及啓発を推進する
 ○青少年に対する異文化理解の増進を図る事業を推進する
 ○幼児期の運動プログラム及び自然体験活動の推進事業の充実

2 研修支援の充実を図るため、
 ○利用団体の教育的ねらいを踏まえた指導・助言の充実を図る
 ○若狭湾の立地条件を活かし、教育的な観点に立った活動プログラムの充実を図る
 ○海の活動の充実に向けた調査研究を推進する

3 ニーズに合う施設運営と利用者サービスの向上を図るため、
 ○利用に関するホームページ・ブログを充実する
 ○広報活動の積極的な取り組みを推進する
 ○職員の意識・技能を高める研修を推進する
 ○地域の関係機関・団体との相互連携を推進する

利用者の立場にたった施設像

○利用しやすい施設
 ○安心して活動できる施設
 ○充実感が味わえる施設

